

飯山高校

桂雪会報

第7号

発行日

令和6年2月20日

発行人

長野県飯山高等学校

桂雪会長 宮本衡司

編集責任者 渡辺藤夫

印刷所 (株)足立印刷所



創立百二十周年記念式典を終えて

飯山高等学校同窓会 桂雪会 会長 宮本 衡司（飯山北S45年卒）

令和6年辰年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。桂雪会員の皆様には、日頃から桂雪会の活動に対しご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

また、新年を迎えた元日に能登半島大地震に見舞われ、長野県内でも大きな揺れを観測しました。石川・富山・新潟で被災された方々に対し、心からお見舞い申し上げます。一刻も早く復旧が進み、平常を取り戻す日を願っております。

新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴って

さて、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し、社会生活や学校生活はかつての動きを徐々に取り戻してきました。桂雪会の総会も久しぶりにホテル「ほていや」で5月に開催し、懇親を深めることができました。今年度最大の事業である創立百二十周年記念式典・講演会・祝賀会も10月14日（土）に大勢のご来賓や会員の皆様にご来場いただき、盛大に開催することができました。改めて、皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。

学校の行事も文化祭やクラスマッチ・研修旅行など、フル規格で開催されたようです。飯高祭では4年ぶりに合唱祭も復活し、クラス協力しての歌声を響かせました。一般公開もクラス展示や芸術祭の賑わいを取り戻し、同窓会でも創立百二十周年記念事業の一環と

して記念品の販売や「野球部の甲子園出場」、「スキー部の全国高校スキー大会での活躍」、「SSHの課題研究の成果」に関するパネル展や「ジャーナル・情報紙から見る飯山高校統合の歩み展」を開催しました。地域の皆様には飯山高校の活躍の様子や桂雪会の活動を知っていただく良い機会となりました。

また、今年度は陸上部の活躍が目覚ましく北信越大会の走り幅跳びで荒井陽呂実が優勝、佐藤駿也が3位入賞を果たし、全国高校総大会に出場しました。選手層も厚くなり、県大会の総合得点でも常に上位に名を連ねるようになりました。駅伝大会でも男女ともに入賞を果たし、活躍の幅を広げています。卓球部も北信越の選抜大会で個人戦優勝を果たし、練習の成果を発揮しました。吹奏楽部や美術部、書道部、ダンス同好会等の文化部も、「灯ろうまつり」や「えびす講」などの際に、日頃の活動の成果を披露して地域活性化に貢献しています。いよいよスキーシーズンに入り、今年度のスキー部の活躍も期待されると思います。

創立百二十周年記念式典と講演会・祝賀会の開催

先にも述べたように、数年前から準備を進めてきた創立百二十周年記念式典・講演会・祝賀会が多くの皆様のご協力を得て無事終了いたしました。この準備期間に、飯山市内3校の歴史と飯山高校に統合されてきた過程を

振り返る機会が何度もあり、地域の教育のためにご尽力いただいた多くの方々への感謝と敬意の気持ちを再確認することができました。在校生にとっても、母校の歴史を振り返り、日々当たり前に恵まれた環境の中で学ぶことができる喜びと先人への感謝の気持ちを感じることができたと思います。

当日の式典会場には、「情報紙・ジャーナルに見る統合校の歴史」、「SSHの歩み」、「甲子園出場軌跡」、「スキー部OB・OGのオリンピック選手」、「いいやまインターハイでの活躍」とテーマごとにパネル展示され華やかさを演出しました。また、本校の卒業生である校歌作詞者の現代歌人田井安曇氏や、東洋史学者の宮崎市定氏の写真と全集の一部が展示紹介されました。式典に先立つての歴史を振り返るスライドの上映や、故藤森章氏（元飯山北高校教諭）が飯山での教員生活を偲んで作曲した「吹奏楽のための交響曲」を吹奏楽部が演奏し、式典の雰囲気盛り上げました。

式典に次いで、宮本昌志氏（現在協和キリン代表取締役社長・昭和53年飯山北卒）による講演会が「好奇心を持って夢に挑戦し続けよう」という演題で行われました。宮本氏は飯山市桑名川の生まれで、大学では薬学を学びました。キリン麦酒に入社後、研究者から経営者に転身し現在に至っています。講演の中で「夢があるならば夢を目指す目的を忘れず、具体的な姿が変わっても夢の実現することを目指す」ということが大切であると話ししました。また、「飯山の自然を相手に、五感を活用して環境の変化に対応した正解のない経験が仕事や人生の中で生きてくる」と飯山の自然の中で育った自らの体験を踏まえて語りました。生徒諸君にとっても、企業や仕事の価値や進路・学業について考える良い機会となったと思います。

また、記念品の「飯山高校箴言集」復刻版の発行を行い、参加された皆様に配布しました。生徒諸君はもちろん大人の私たちにも、日々の生活や今後の人生の道標として、数々の「ことば」が役立つのではないかと思

います。その他記念事業として、「高校野球発祥記念碑と植樹」、「全国高校スキー大会総合優勝記念プレート」の設置と昭和40年度飯山北・南男女アベック優勝記念碑の移設」を行いました。記念誌については「飯山高等学校統合のあゆみ」として、1次・2次の統合の経過やその後の発展の様子をまとめました。市内3校で既に発行された各記念誌の続きの内容について編集を行ってきました。計画では12月末には完成の予定でしたが、2か月ほど遅れて2月末に完成予定です。学校・桂雪会関係者や生徒・保護者の皆様、一万円以上ご寄附いただいた方々に配布いたしますので、御覧いただいて本校の歴史を知っていただく機会になれば幸いです。

教育環境整備事業の継続と同窓会名簿の更新

記念事業で残っているのは、教育環境整備事業の「合宿所の改修による『地域・教育交流会館（仮称）』の設置」です。合宿所は平成2年に建設され30年以上を経過する鉄骨2階建ての建物で校地の北東の位置にあります。現在は合宿施設としての役割はなく、主として百人一首や弦楽器・軽音楽の活動に使用されています。屋根や外壁も傷んでこのままでは廃屋になりかねないので、屋根・外壁、内部を改修して生徒のクラブ活動や学習の場として、また、地域との交流や同窓会の会議の会場として有効利用できるように計画しています。しかしながら、その改修資金となる篤志寄附の募金額が目標額に達することができず、2期分として4月30日まで期間を延長していますので、引き続き篤志寄附を中心にご協力をお願いいたします。

また、桂雪会名簿が令和2年1月に発行されて今年で5年目になります。5年ごとに更新していくことになっており、令和7年1月に新刊が発行となります。今年の7月頃から住所確認の連絡が（株）サラトより届く予定ですのでご承知おき願います。

（令和6年1月）



百二十年の伝統に感謝 栄えあれ飯山高校

校長 湯本 武利

桂雪会の皆様には、平素より母校の教育活動を見守りいただき、また、ご理解とご協力、多大なご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

過日、令和5年10月14日（土）に挙行されました長野県飯山高等学校創立120周年記念式典は、会場の飯山高校大体育館に約1000人の同窓生・現役飯山高生が世代を越えて集い、母校の120周年を厳粛に、かつ盛大に祝い、飯山高校の校史に新たな歴史を刻むことができました。この間、桂雪会員、PTA、地元企業、一般市民の方々には、様々なご支援ご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

この記念式典の開催に向けて、令和2年6月には記念事業準備委員会が立ち上げられ、募金部会、総務部会、式典・祝賀部会、記念誌部会、事業部会の5つの部会が設けられました。そして、今年度の6月には、名称を記念事業実行委員会に変更し、延べ7回の実行委員会を重ね、準備を進めて参りました。桂雪会の皆様に大変お骨折りをいただいたことに心より感謝申し上げます。

また、当日は、記念式典に続き記念講演会を開催いたしました。講師に、昭和53年飯山北高校卒業で、製薬会社である「協和キリン株式会社」代表取締役社長の宮本昌志様にご講演をいただきました。

5月に宮本様の会社にお伺いし打ち合わせをさせていただいた際、講演内容として「これからの時代を生きる高校生に伝えたいこと、何のために学ぶのか」等についてお話しいただきましたとお伝えしたところご快諾いただき、当日は、「好奇心をもって夢に挑戦し続けよう!」と題しご講演いただきました。私自身、宮本様の穏やかな語り口と内容に引き込まれ、あつという間の5分となりました。生徒たちも身近な先輩のお話を聞くことができるといふことで、画板を用意してメモを取るなど、自分の未来を創造するヒントを得ようとする姿が見られました。生徒のアンケートを見ますと、「自分の生き方や進路を考える機会のひとつになった」と回答した生徒が70%を超える結果となり、宮本様の挫折された経験を含めたお話が生徒の心に響いたようでした。また、感想では、「夢を決めてその夢を目指していく中で、なぜ目指しているのかという目的を忘れないことが大事ということはとても印象に残った。」「私は長野で生まれ育ったことがそこまでプラスだと思っただことはなかったのですが、長野県で育つて、そこでの経験を活かしているという話が印象に残っています。」「お医者さんなど直接人とかかわる仕事も素晴らしいが、宮本様は、薬一つを作ると多くの人が助かるので、製薬の道を選んだと

聞いて、いろいろな考えに沿った進路があるんだと印象にのこりました。」「宮本社長のような方にも過去に挫折があつてもそこから自分が本当にやりたいことなどを考えて努力し続けたということが素晴らしいと感じました」(以上、多数の感想の中から抜粋)というように、自分の高校生活や進路と重ねてどう生きるかを考えるきっかけとなった生徒が多かつたようです。感受性豊かで多様な高校生が集う中で、たいへん有意義な講演をしていただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、今年度は新たに172名の新入生を迎え、計540名(令和5年5月1日現在)でスタートしています。今年の5月までの数年は、コロナウィルス感染症対策により様々な制限を受ける中、生徒たちは、未知なる課題に対し、智慧を出し合い文化祭などの生徒会行事をどう実施するかという難問に取り組んだ期間となりました。立ちほだかる壁から逃げることなく果敢に挑み続けた生徒たちの姿に誇りを感じました。そして部活動においては、スキー部が令和5年2月のインターハイで男子総合優勝、女子準優勝を果たしました。また、陸上部では、北海道で行われたインターハイの幅跳び競技に2名の選手が出場を果たしました。さらに、課題研究においては、鹿児島で

行われた全国高等学校総合文化祭自然科学部門に長野県代表として本校の自然科学部が「CAM植物のエチレン誘導クロシス解析」という研究テーマで出場を果たしました。長野県学生科学賞では、自然科学部の研究テーマ「エチレン誘導性白化現象の解析」リングを用いた除草剤開発に向けて、」が県2位となる県議会賞を受賞しました。このように生徒たちは、桂雪会の先輩方が年月をかけて大切に慈しんでくださった土壌の中で、迷いなく真つすぐ高校生活に打ち込むことができています。部活加入率が90%を超える中で、「勉強・部活・生徒会・学校行事」の全てを真剣に追う飯山高生の逞しさが伺えます。

飯山高校での様々な学びを通して己の可能性の魂を太らせている生徒たちに、さらにしなやかな知性を身に着け、新時代をたくましく生きていく人になってほしい、そして幸せになつてほしいと願うところであります。

今年も冬本番を迎え、まもなく全国高等学校スキー大会が開催されます。今年は富山県が会場となります。選手たちは全国優勝を目指して、雪国飯山に朗報が届けられるよう力を発揮してくれるものと期待を膨らませながら、飯山高校のさらなる発展のために生徒と共に職員一同学校づくりに励んで参ります。

最後になりますが、桂雪会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いするとともに、桂雪会がますます発展されることを祈念してご挨拶いたします。

Super Science High schools

❖ 第Ⅲ期SSHは後半へ

今年度は1年探究科の関東サイエンスツアーの東大研究室訪問が復活して2泊3日で実施され、関西サイエンスツアーも企画され、外部との交流がさらに活発になりました。全国総文祭や北信越課題研究発表会への出場権を獲得するなど、質の高い課題研究も盛んに行われています。

今年度は第Ⅲ期中間評価があり、全国レベルの発表会への積極的な参加や国際性の涵養がこれからの課題解決が期待されています。令和6年度は海外研修旅行も計画されており、第Ⅲ期SSHは新たなフェーズに入ります！

自然観察フィールドワーク・サイエンスツアー

❖ フィールドワーク

5/19 (月) 1学年普通科・スポーツ科学科……なべくら高原森の家(飯山市)
探究科……森の学校キョロロ(新潟県十日町市)

10/25 (水) 1学年普通科・スポーツ科学科……なべくら高原森の家(飯山市)
例年のように、鍋倉山中・茶屋池・森の家周辺など、絶好の日和に恵まれたなかで、生活と自然との関わりについて学びました。

❖ サイエンスツアー

9/16(土)～18(月・祝) 自然科学部生徒9名

大阪公立大学の研究室訪問、日本地質学会(京都大学)でのポスター発表、京都市内の巡検などを行いました。本校HPでも公開しています！

9/29(金)～30(土) 2学年探究科

木曽観測所での東京大学「星の教室」と、松代・上田研修との2班

10/24(火)～26(木) 1学年探究科

東京大学・日本科学未来館・KEK(右写真)・JAXAなどを訪問しました！



全国総文祭に出場！～自然科学部門に長野県代表として参加～

7月29・30日、自然科学部が鹿児島大学(鹿児島市)で行われた第47回全国高等学校総文祭自然科学部門で長野県代表として研究発表(ポスター発表)を行いました。生徒交流発表(ポスターコアタイム)では他校の生徒と活発にお互いの研究について議論を交わしました。また、巡検で霧島ジオパークの天降川溪流に行きました。大規模火山噴火による火砕流堆積物、河川による侵食地形、溪流植物のカワゴケソウなどを観察しました。

KDDIコラボ企画！～宇宙(サイエンスツアー)・サバ缶(課題研究)～

県教育委員会は、KDDI株式会社、長野県立大学との三者包括連携協定の一環である「学校×KDDI共創プロジェクト」の新たな試みとして、授業にKDDI株式会社のビジネスノウハウや事業内容を盛り込んだ活動を行いました。10月19日は1年探究科の探究基礎の授業でサイエンスツアーに向けた事前学習も兼ねて「宇宙ビジネスを考えるワークショップ」、11月3日の飯山えびず講にて2年探究科課題研究「♡サバ缶LOVE」チームによる研究発表を実施しました。



第13回 SSHフェスティバル in 飯山高校

11月25日(土)、1学年探究科生徒の運営で実施し、小中学生ら50名以上が参加しました。実験を通じて、科学の世界を楽しんでももらいました。探究科1年生と自然科学部、生徒会執行部等が中心となって企画しています。「わくわくサイエンス教室」は、探究基礎の授業の一環として実施され、テーマ設定から当日の演出方法まで生徒がデザインし、試行錯誤を繰り返しながら協働・情報発信力を養いました。

飯山高等学校創立百二十周年記念事業について

飯山高等学校創立120周年記念事業実行委員会事務局

1 経過

飯山高等学校は平成28年（2016年）4月に二次統合が完了し、新たな歴史を刻み始めました。一次統合完了時に、飯山照丘高校や飯山南高校では閉校式とともに記念誌を発行して、それまでの歴史をまとめていました。飯山北高校では、閉校式を行ったものの記念誌を発行することができず、百周年誌以降の学校の歴史をまとめることができていませんでした。また、同窓会館の役割を果たす場所も欲しいという要望もありました。そのようなこともあり、「飯山市内の高校の始まりの年から数えて120年を迎えるときに記念事業を行ったかどうか」という提案が元校長先生や野球関係、同窓会の関係者からささやかれるようになりました。

令和元年（2019年）、野球部の夏の甲子園出場が追い風となり、令和2年3月に「周年行事検討委員会」を開催して、令和5年（2023年）10月頃に記念式典を開催する案を決めました。同年5月に開催された桂雪会総会で「飯山高等学校創立120周年記念事業」が承認され、準備組織として「飯山高等学校創立120周年記念事業準備委員会」の発足が認められました。その後、コロナ禍もあり、準備委員会は2回の開催にとどまりましたが、翌年の令和3

年の5月の桂雪会総会にて、記念事業名は学校・同窓会・PTAの三者共催による『飯山高等学校創立120周年（飯山南100年・飯山照丘75年・統合15年）記念事業』として、記念事業の内容や記念式典・講演会の概要も決定し、募金方法についても確認されました。コロナ禍による経済状況の悪化やロシアのウクライナ侵攻による紛争の長期化により、募金結果については厳しい見通しでしたが、地域の皆様や同窓生の皆様の協力を仰ぐことになりました。

令和4年度からは、統合に係った元校長先生や地域の6市町村長に顧問になつていただき、「準備委員会」から「実行委員会」に名称変更して具体的な作業に着手していきましました。募金については、特に教育環境整備事業（合宿所の改修・弓道場の改修・第2グラウンドのトイレ新設）に係る篤志寄附（税金の控除対象となる募金）実施の為の手続きに関して、郵便局や税務署とのやり取りに手間取り、募金開始が令和5年2月1日からとなりました。

令和5年6月1日に飯山野球発祥記念碑・アオダモの植樹の除幕式を行い、令和5年7月の飯高祭には創立120周年記念事業展示を実施（SSH・甲子園・スキー・ジャーナル情報紙のパネル展示と各種記念品の販売）しました。8月30日に全

国スキー大会優勝記念プレートを設置し、翌日の31日には昭和40年度飯山北・飯山南アベック初優勝記念碑の移設を行いました。

記念式典・講演会・祝賀会の開催日10月14日までに、部会ごとに会議や作業を行い、計7回の実行委員会を経て開催することができました。式典当日は、多くのご来賓や飯山高校の生徒・職員、同窓会の関係者にご出席いただき、盛大に執り行うことができました。遅れ気味だった記念誌の編集作業は1月には完了し、2月中には完成する予定です。また、教育環境整備事業のための篤志寄附については、当初の目標額には届かなかったため、事業内容を合宿所の改修に絞り、募金期間も令和6年4月30日まで延長して、令和6年度内に完成する予定で事業を継続しています。

2 記念事業の概要

1 事業名

『飯山高等学校創立120周年（飯山南100年・飯山照丘75年・統合15年）記念事業』

2 実施日

令和5年10月14日（土）

記念式典・記念講演会（大体育館）、祝賀会（「なちゅら」）

3 テーマ

「弗為胡成、未来へのレガシー創造」

4 事業内容

（1）記念式典・記念講演会・祝賀会

（2）教育環境整備事業（長野県に寄附採納する）
・合宿所の改修による「地域・教育交流会館（仮称）」開設

（3）記念誌発行

「H15年以降、統合の歴史と現在の飯山高校」を中心に編集

（4）スキー総合優勝記念プレートの設置・石碑の移転とパネル展

（5）野球記念碑・記念植樹と甲子園出場の軌跡パネル展（記念試合は雨で中止）

（6）SSH（スーパースイェンスハイスクール）の歩みパネル展

（7）「情報紙・ジャーナル」からみる統合校の歩みパネル展

（8）記念品は「飯山高校箴言集」（復刻版）



3 記念式典・講演会・祝賀会等の様子

10月14日(土)の前日の午後、校内総出で式典会場・講演会の準備やパネル展の展示を行いました。書道部はステージ上の横断幕、玄関の立て看板の準備を担当し、吹奏楽部は校歌の演奏・「吹奏楽のための交響曲・第4楽章」(藤森章作曲)の練習に余念がありませんでした。

当日は、晴れの日にふさわしい好天に恵まれ、準備作業の苦勞が報われるようでした。実行委員会による来場者の受付後、式典前のスライド上映や吹奏楽部の演奏を視聴のために早めに会場へ案内しました。会場は、懐かしいイ3校の校旗、甲子園出場やスキー部栄光の歴などの写真パネルが展示され、雰囲気盛り上げていました。歴史を振り返った校歌をBGMにしたスライド上映と吹奏楽の演奏の後、10時からiネットいやまの篠原美絵さんの司会で式典が始まりました。

式典次第

- (1) 開式の辞
実行委員会副委員長 瀧澤俊實
- (2) 実行委員長式辞
実行委員会委員長 宮本衡司
- (3) 学校長式辞
学校長 湯本武利
- (4) 県教育委員会挨拶
県教育委員会高校教育課管理係主任 指導主事 水野鉄也

(5) 来賓祝辞

中野市長 湯本隆英
中野市・下高井郡県議会議員 小林東一郎

(6) 来賓紹介

(7) 祝電披露

(8) 実行委員会経過報告 (紙面)

(9) 生徒代表挨拶

(10) 校歌斉唱 演奏…吹奏楽部

(11) 閉式の辞

生徒会長 新保祐樹
実行委員会副委員長 岡本勝也



式典会場の様子

講演会講師
宮本昌志氏

校旗

式典終了後、宮本昌志氏(現在協和キリン代表取締役社長・昭和53年飯山北卒)による講演会が「好奇心を持って夢に挑戦し続けよう」という演題で行われました。講師の紹介を高校時代の同級生小田切昇実行委員が行い、当時の学校の様子や生徒の学校生活とあわせ、宮本氏の人となりを紹介されました。宮本氏は飯山市桑名川の生まれで、大学では薬学を学びました。キリン麦酒に入社後、研究者から経営者に転身し現在に至っています。自身の進路や人生の分岐点での選択の経験を踏まえ、「夢があるならば『夢を目指す目的』を忘れず、立場や役割が変わっても『夢の目的を実現すること』を追求していくことが大切である」と話しました。また、「飯山の自然を相手に、五感を活用して環境の変化に対応した正解のない経験が仕事や人生の中で生じてくる」と飯山の自然の中で育ったことが自分の人生の根幹となったことを生徒諸君に語りました。

講演会終了後は、スキー部OB・OG会による全国高校スキー大会総合優勝プレートと移設された昭和40年度飯山北・南男女アベック優勝記念碑の除幕式を行いました。その後、午後1時から飯山文化交流館「なちゅら」の大ホールで祝賀会を行います。にぎやかな語らいの場となりました。

4 今後の事業

創立百二十周年記念誌の発行は、当初12月

末に完成の予定でしたが、原稿書きや編集作業に思いのほか時間を要し、ようやく印刷製本作業にこぎつけることができました。「飯山高等学校統合のあゆみ」として、飯山北高校の百周年誌以降の学校の様子や1次・2次の統合の経過とその後の発展の様子をまとめました。3月中には学校・桂雪会関係者や生徒・保護者の皆様、一万円以上ご寄附いただいた方々に配布できるとしています。また、教育環境整備事業の「合宿所の改修による『地域・教育交流会館(仮称)』の設置」については、その改修資金となる篤志寄附の募金額が目標額に達することができず、2期分として4月30日まで期間を延長しました。募金終了後、再度設計を行い、業者を選定して飯高祭終了後から改修工事を開始する計画です。何卒、募金にご協力をよろしくお願い申し上げます。

篤志寄附口座

・ ゆうちよ銀行

00520171104281

名義 飯山高校創立120周年記念

事業実行委員会

他行から振込み

店名〇五九 当座0104281

・ 八十二銀行 飯山支店

普通690186

名義 飯山高校創立120周年記念

事業実行委員会

◎文化祭

第8回飯高祭（文化祭）が「青春って120種類あんねん」のテーマで開催。

昨年まではコロナの影響で制限された内容でありましたが、今年度は市内パレード、ダンスパフォーマンス、合唱コンクールの全校行事をはじめ、書道部のパフォーマンスや吹奏楽部の発表、工夫されたクラス展示など盛りだくさんでした。生徒会主催の屋台も復活し、焼そばのテント前は行列ができ大繁盛でした。地域の皆さまにも多数来場していただき、2日間の入場者数は約2400人でした。



学校の様子

◎地域行事への参加

2年探究科の「探求実践」でサバ缶に関する研究を行う「サバ缶チーム」は飯山市のチャレンジ事業にも認定され、11月飯山えびす講にて、研究発表を行いました。発表の他にサバ缶をつかったコロケを調理し試食も行われました。当日はサバ缶チームを応援する書道部のパフォーマンスも披露され、会場を盛り上げました。サバ缶チームは1月には東京山手調理専門学校でも研究発表を行いました。



◎強歩大会

10月6日（金）、第40回強歩大会が行われました。昨年は悪天候で中止でした。また一昨年までのコロナ禍ではやや短縮したコースでしたので、久しぶりの通常コースでの実施でした。コースは第2グラウンドを出発、国道沿いに、千曲川左岸を北へ進み、柏尾橋を渡って南進、瑞穂地区の堤防を飯山方面へ、中央橋を通り城北グラウンドにゴールという約18kmでした。途中雨が降る天候ではありましたが、北信濃の景色も楽しみながらの半日となりました。ゴールや給水地点ではPTAの方々大変お世話になりました。



◆陸上部

インターハイ（札幌市）出場

3年 荒井陽呂実 走幅跳・三段跳

3年 佐藤駿也 走幅跳

◆卓球部

2年 橋立隼汰

第51回北信越高等学校選抜卓球大会（長岡市）

男子シングルス 優勝



荒井選手



佐藤選手



橋立選手

◆スキー部 世界大会へ

ユースオリンピック出場

松沢意（クロスカントリー）

久保田康太郎（コンバインド）

山崎詩由衣（コンバインド）

ノルディックジュニア世界選手権出場

西方遙人（ジャンプ）

串橋祐次郎（クロスカントリー）

山崎詩由衣（コンバインド）

◆スキー部 第73回全国高等学校スキー大会

女子総合優勝 男子総合準優勝

富山県で開催された令和5年度全国高等学校総合体育大会でスキー部が大活躍、素晴らしい成績を修めました。

優勝 女子クロスカントリー5kクラシカル

高橋実菜

コンバインド 眞正蓮

女子リレー（小坂 高橋 松沢）



支部活動リポート

令和5年度桂雪会東京・関東支部総会報告

高橋 彰(高24)

令和5年11月11日11時、トリプル・イレブンの土曜日、総会としては5年振りの桂雪会東京・関東支部総会を、若者で賑わう原宿駅前「南国酒家」で開催した。コロナ禍を経て参加人数が予測できない状況であったが50余名の集いとなり、今回初めて南高、照丘高出身者の参加もあった。会場には長坂邦彦氏(高6)提供の故郷飯山の四季の写真も掲示された。

副支部長の阿部靖典氏(高31)の進行のもと、青井富雄(旧姓岡村)支部長(高19)の開会挨拶で始まり、飯山高校の湯本武利校長先生(高55)からは「各学年とも5クラスで学業、クラブ活動、さらにSSHや地域活動などに奮闘し成果をあげている。スキー部は男子優勝、女子準優勝の成績を上げた。今年は前身から数えて飯山高校120周年であり、10月14日に記念式典・講演会・祝賀会を行った。」と現状報告して頂いた。

続いて総会議題に入り、副支部長の高橋(高24)から、本部・支部の活動を報告し、さらに今年から桂雪会本部からの経費的支援を受けられるようになったことを報告した。阿部副支部長から会計報告、中島謙次氏(高41)から会計監査報告

告がなされ、活動報告、会計報告ともに拍手で承認された。さらに、青井支部長が支部役員体制の変更を報告して承認され、阿部新支部長が新体制を発表した。

講演は、飯山市長の江澤岸生氏(高24)から「高野辰之作詞の唱歌には冬の歌はないが、童話「かさじぞう」の挿絵は飯山の冬に魅せられて描かれている。飯山の四季の自然と環境をさらに見つめ直し行政に活かしていきたい」との話があり、児童文学家の上野明雄氏(高14)の紹介もあった。

懇親会は、副支部長になった山城弘枝氏(高34)と藤好しのぶ氏(高44)の澆漣とした司会で進められ、最年長の高木良造氏(高3)の乾杯で和やかな懇親の集いが始まった。小規模の会場ではあったが、各テーブルでは本格的中華料理に舌鼓を打ちつつ、互いの近況や思い出話を披露し、互いにうなずき合う姿も見られた。

校歌斉唱では、前回練習した飯山高校校歌に新たに南高校歌と照丘高校歌が加わり、最後はお待ちかねの飯山北高校歌「甲

斐の高峰に」が高らかに胸いっぱい思いで歌い上げられた。終わりは本部副会長でもある高橋の万歳三唱で閉会し、互いに惜しみながら再会を誓って散会した。

今回初めて南高、照丘高出身の参加者

が加わり、さらに若手も増えて東京・関東支部の新たな姿がみえてきた。今後とも、本部とも連携しながら同窓生のさらなる参加拡大を目指していきたい。

令和5年度支部・新役員体制

顧問	岡田 庸利 (高8)	副支部長	山城 弘枝 (高34)
	青井 富雄 (高19)	会計	藤好しのぶ (高44)
支部長・本部代議員	阿部 靖典 (高31)	事務局	六川 裕幸 (高34)
副支部長・本部副会長	高橋 彰 (高24)	会計監査	中島 謙次 (高18)



東京・関東支部の御案内

首都圏にいる飯山高校(飯山北、飯山南、照丘)の同窓生が集まります。一年おきに交流会を開催し、仲間と語り合い校歌を歌っています。是非、ご参加ください。

連絡先／支部長 阿部靖典 090-2629-0267 y19871025tomo@outlook.jp

❖卒業60周年記念同窓会

1963（昭和38）年3月飯山北高卒業生による、卒業60周年の記念同窓会が2023年9月27日、飯山において開催されました。当日は恩師の関川光彦先生、矢島薫先生もご出席され、40名以上が参加されたとのことです。定期的に開催されてきた同窓会も60周年を区切りとするということです。また、「千曲川果つる学び舎で」と題した記念文集も編集され、同窓会事務局に寄贈いただきました。ここに一例をご紹介します。

「橋の思い出 ― 飯山北高の3年間 ―」 4組 武田芳彦

住まいは中野市壁田という飯山寄りの部落で、蓮駅からの汽車通学だったから千曲川を渡ることになる。この橋が古牧橋である。私の通学当時は、木製の舟橋だった。川の中央部に舟を並べ、ここに橋桁を乗せ横板を敷いた全長約300mの橋だった。だから台風シーズンの増水時には撤収されて、その時期は渡し舟になる。私は丸々3年間、この舟橋と渡し舟で通学した。現在の永久橋になったのは、卒業した年の11月だ。チクショー。

渡し舟が川の真中辺りまで進んだときに、飯山線の蒸気機関車の汽笛が聞こえる。着岸すると同時に自転車を漕ぎ蓮駅で列車に飛び乗るという芸当もやった。ノロノロ列車の最後尾のデッキで仲間に引き上げてもらった。生徒会で遅くなったときなど対岸に向かって「オーイ」と叫び、船頭さんに迎えに来てもらった。なかなか苦労した通学の橋と舟だった。

昔から長距離走が苦手だった。北高には午後の体育の時間にこれがあった。校庭を出て、千曲川の堤防を走り、綱切橋をわたり中央橋を経て戻る約5.5kmのコースだ。全部見渡せるからズルはできない。最初はトップグループで飛び出すが、次々と追い抜かれ、綱切橋で中の下、中央橋で下の下になるのが常であった。最後の堤防道路は飯山中学のガキどもが窓から見ていて、追い越されると歓声をあげていた。パーカ。この二つの橋もなかなかの厳しい思い出である。古牧橋では不運に泣き、綱切橋と中央橋では非力を嘆いたが、あれから60年有余年、何とか生き長らえてここにいる。名曲「高校三年生」のようにクラスの仲間にも恵まれて、やっぱり飯山北高はよかったなあ。

令和5年度桂雪会役員（5月末現在）

本会役員		幹事	
顧問	岩崎 彌	幹事長	上海 一徳
	猪瀬 清徳		村石桂太郎
会長 副会長	森 司朗	幹事	小橋 浩樹
	関 保典		湯本 直木
	湯本 武利		山崎 美典
	宮本 衡司		大塚 正
	内山 英樹		新家 智裕
	高橋 彰		小田切 昇
瀧澤 俊實	藤巻 篤		
太田 良夫	藤本 智教		
小嶋日出子	岡田 敬幸		
石田 一彦	川久保直市		
監事	箕口 徳夫		吉越 利明
			小山 巧
			島田 和彦
		澤木 伸一	

「甲子園出場寄附金」に関する事業の報告

令和元年第 101 回全国高等学校野球選手権大会への出場に際して、多くの皆様方から多大なご支援をいただきましたことを改めて心より御礼申し上げます。

令和 5 年 12 月 19 日（火）に飯山高校で「甲子園出場実行委員会」を開催し、今年度の以下の事業の実施について報告と了承を得ました。

(1)野球部

①ピロティ防球張り替用ネット

支部名	支部長	副支部長
飯 山	上松 永林	横川 莊一 村石桂太郎 島田 和彦
秋 津	石澤 一芳	丸山 朗
木 島	関 藤夫	澤木 伸一
瑞 穂	増山 保範	岩松 義雄
柳 原	佐藤 正夫	木幡喜美子
外 様	春日 早夫	春日 隆
常 盤	平野 弘蔵	
太 田	青木 彰	庚 繁樹
岡 山	井沢 清一	田中 康一
木 島 平	瀧澤 俊實	池田 充栄
野沢温泉	平田 幸男	富井 裕昭
栄	森川 博	
長 野	武田 芳彦	瀧澤 国夫
須 高	小林 守夫	大熊 文久
豊 野	米木 善登	原田 茂
中 野		
豊 田	吉岡 典高	小橋 浩樹
津 南	島田 哲宏	
県外		
東京・関東	青井 富雄	高橋 彰 阿部靖典(会計)

「甲子園出場寄附金」に関する事業の報告

令和元年第101回全国高等学校野球選手権大会への出場に際して、多くの皆様方から多大なご支援をいただきましたことを改めて心より御礼申し上げます。

令和5年12月19日（火）に飯山高校で「甲子園出場実行委員会」を開催し、今年度の以下の事業の実施について報告と了承を得ました。

(1)野球部

- ①ピロティ防球張り替用ネット
- ②グラウンド防球ネット張替補修 合計約21万円

(2)他のクラブ等への助成

- ①陸上部幅跳砂 ②スキー部ローイングマシン修理
- ③公害発表支援（書道部・サバ研）
- ④スキー部マイクロバスキャリア ⑤グランドレーキ
- ⑥ワイヤレスタイム計測システム 合計約181万円

また、令和6年度事業として、120周年事業にかかわる合宿所改修費の補助も承認されました。今後も野球部や他のクラブ、学校全体の教育活動に使わせていただきます。

「桂雪会名簿」発行のお知らせ

5年ごとに発行しております同窓会名簿を令和7年1月に発行を予定しております。令和6年7月ごろに担当業者の（株）サラトより、①名簿記載の有無、②住所の確認、③購入希望などの調査の案内が送付されることとなっております。名簿の価格は4800円です。ご不明な点は同窓会事務局までお問い合わせください。